

勿凝学問 49

最近のこの国の仕組み ——政治力の均衡として形成される政策形成過程再考——

2006年9月24日
慶應義塾大学商学部
教授 権丈善一

問 最近のこの国の仕組みについて考えてみよう	1
参考資料Ⅰ 混合診療論議.....	1
参考資料Ⅱ 政治力の均衡として形成される政策形成過程.....	1
参考資料Ⅲ アメリカの政策形成過程.....	3

問 最近のこの国の仕組みについて考えてみよう

次の3つの記事を読み、君が、いまこれを読んでいる瞬間から次にあった友だちと共に、下記の問について考えてみよう。

- 『日経新聞』2006年9月24日「[社説 宮内後も規制改革の炎を絶やすな](#)」
- 『日経新聞』2006年9月23日「[小泉政権の5年で 企業買収価値](#)」
- 『日経新聞』2004年12月23日「[外国人 日本再生買い](#)」

1. 上記3つの記事を読んで、この国の政策形成過程について、どのような仮説が連想されるか。
2. 君たちが連想した仮説を検証するには、どのような方法が考えられるか。
3. はたして君の仮説は、棄却されるかどうか。
4. 最近のこの国の仕組みについてその是非を論じてみよう。

暇ある者は、参考資料Ⅰ、Ⅱ、Ⅲもどうぞ。

参考資料Ⅰ 混合診療論議

「勿凝学問 25.5 [混合診療論議を題材とした政治経済学っぽい遊び PartⅡ](#)」(2004年12月12日脱稿)

参考資料Ⅱ 政治力の均衡として形成される政策形成過程

権丈(2006)「医療保険の課題と将来」

医療保険制度の課題とは

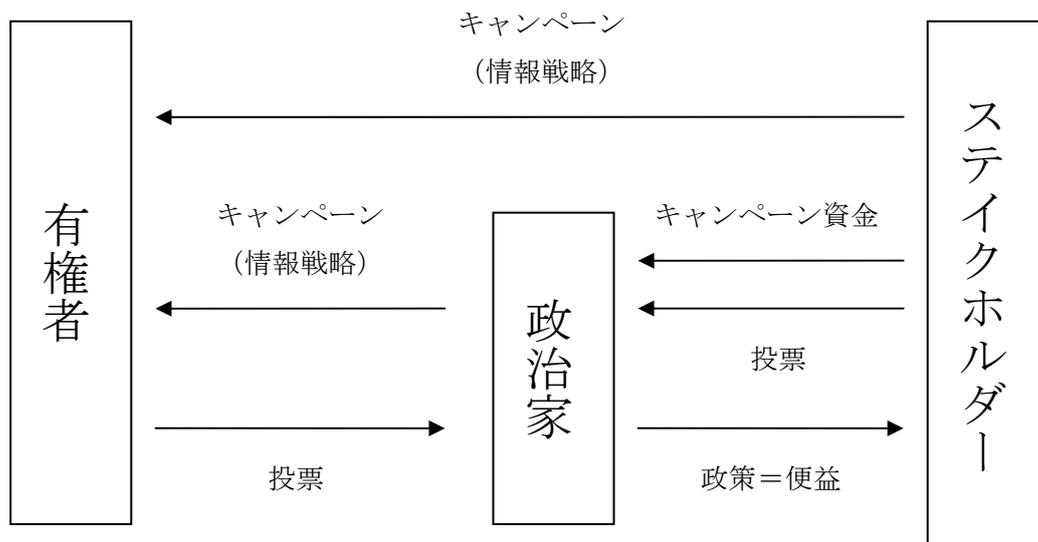
課題？

医療保険制度は生き物ではないので、意思を持ってない。何かをしようという意思のないものは、何かをするために障害があること、すなわち課題を意識することもない。課題を意識するのは、医療保険制度をとりまく人間たちである。

(たぶん、財務省と内閣府からなる現在の) 政府は、医療保険への国庫負担額をできるだけ減らすことが課題であろうし、民間医療保険は、公的医療保険をなんとかしてでも縮小してみずからの市場を開拓することを課題として強く意識するであろう。使用者は、医療保険料負担をどうにかして逃れたいであろうし、厚労省は、医師会は、病弱な人は、医療をあまり使わない健康な者は、それにアメリカの医療ビジネス界は・・・と、それぞれがわが国の医療保険制度に対して意識する課題は、おおよそ異なり、ときに対立し、ときに一致するものとなるはずである。

こうした錯綜する利害を調整するのが政治であり、政治家は利害調整を巧みにやりながら政権をねらう。そこで形成された政策は、それぞれが明確な当事者意識をもつ利害関係者、すなわちステイクホルダーたちが政治家に対してどれほどの票(direct votes)と資金(indirect votes)を供給することができるかという政治力ベクトルの均衡として描写される。この政治力の均衡として形成される政策形成過程を、図1にモデル化してみよう。

図 1 政治力の均衡として形成される政策形成過程



ステイクホルダーは、自分たちに便益をもたらす政策を求めて、政治家を投票で支えるのみならず、彼らにキャンペーン資金を供給したり、自らが直接、キャンペーンを行ったりす

る。キャンペーンとは、当該政策にことさらに強く当事者意識を抱かない有権者の投票行動に影響を与えるための情報戦略である。ステイクホルダーや、ステイクホルダーに資金を供給された政治家は、有権者を対象としたキャンペーンを行って、ステイクホルダーに便益をもたらす政策の形成に努める政治家の得票率を高めようとする。

ステイクホルダーたちは、他のステイクホルダーによるキャンペーンには影響されないであろう。キャンペーンという情報戦略の影響を受けて、医療保険が直面する課題がなんであるのかに変化が生じるのは、医療政策に強い当事者意識をもたない「普通の有権者」、すなわち医療政策における陪審員のみと想定する方が妥当であるように思える。

参考資料Ⅲ アメリカの政策形成過程

2年前、「アメリカで共和党の政策はどのような過程を経て生まれるのか？」を意識しながら横江公美(2004)『第五の権力 アメリカのシンクタンク』〔文春新書〕を読んだときに、わたくしがアメリカの政策形成過程としてイメージした図。市場に委ねられたシンクタンク、ビジネスとしてのシンクタンクが、いかなる帰結をもたらすのかを想起されたい。

図 2 政治力の均衡として形成される政策形成過程（アメリカ版）

